



# 一月(大) 睦月 危宿

一月六日小寒の節より  
月命丁丑九紫火星の月  
暗剣殺南の方

旧十二月大  
正月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	水	みづのとう	四緑	○元日、年賀、初詣、歳旦祭、修正会、 初卯、初賀、旧暦十二月大	七	赤口	たいら	壁	万よし	6.50	16.38	10.50	22.16
2日	木	きのえ たつ	五黄	初荷、初夢、書初め、皇居一般参賀、 旧こと納め、旧針供養	八	先勝	さだん	奎	大みやう	6.51	16.39	11.18	20.49
3日	金	きのと	六白	○上弦一三時四五分、初巳、 福岡管崎宮玉せせり	九	友引	とる	婁	十し	6.51	16.40	11.45	20.49
4日	土	ひのえ うま	七赤	初水天宮	十	先負	やぶる	胃	大みやう	6.51	16.40	11.14	18.41
5日	日	ひのこ	八白	初水天宮	十一	佛滅	あやぶ	昂	神よし	6.51	16.41	12.02	17.12
6日	月	つちのえさる	九紫	小寒六時三〇分、六日年越し、東京消防出初式、 官庁御用始め、公現祭、高崎だるま市	十二	大安	あやぶ	畢	神よし	6.51	16.42	2.00	13.06
7日	火	つちのとり	一白	七草、人日、 福岡太宰府天満宮うそ替え・鬼すべ	十三	赤口	なる	觜	●	6.51	16.43	2.59	13.59
8日	水	かえ いぬ	二黒	学校始業、東京鳥越神社とんど焼、 初業師、不成就日	十四	先勝	おさん	参	百事吉	6.51	16.44	3.46	14.45
9日	木	かのと	三碧	宵えびす、初亥、 京都西本願寺報恩講(16日迄)	十五	友引	ひらく	井	大みやう	6.51	16.45	4.44	15.27
10日	金	みづのえね	四緑	一〇番の日、初金毘羅、初子、 十日えびす、八せん始め、一粒万倍日	十六	先負	とづ	鬼	くま日	6.51	16.46	5.04	16.07
11日	土	みづのとうし	五黄	○望四時二一分、鏡開き、蔵開き	十七	佛滅	たつ	柳	十し	6.51	16.46	5.58	16.46
12日	日	きのえ とら	六白	初寅	十八	大安	のぞく	星	神よし	6.51	16.47	6.05	17.14
13日	月	きのと	七赤	○成人の日、一粒万倍日 十四日年越し、仙台どんと祭、 大阪四天王寺どやどや	十九	赤口	みつ	張	神よし	6.51	16.48	7.04	17.26
14日	火	ひのえ たつ	八白		廿	先勝	たいら	翼	大みやう	6.50	16.49	7.13	18.07

冠婚葬祭とは、わが国古  
来よりの礼法で、加冠、婚  
礼、葬礼、祭祀の四つを略  
していったものである。曆  
に即したものを中心にして  
そうでない一般的なもの  
適宜に配置した。

【冠】これは、加冠(戴冠)  
の儀という男子の元服を代  
表にしたもので、人間が成  
長し、人格が形成されてい  
く段階において行なう、数々  
の儀式の総称である。

一月の冠儀は「成人式」  
二月第一月曜日(に極まる。  
これは、法的に新しく社会  
の一員に加わる満二十歳に  
なった青年男女が、自覚し  
てめでたく菓立つことを祝  
福する日として国民の祝日  
となっている。

【婚】婚姻、婚礼は、季節  
にほとんど関係がなく、寒  
中であれ暑中であれ、日柄  
さえよければ挙式するなら  
わしであるが、農家では比  
較的ひまな一月に式を挙げ  
ることが多い。

【葬】生者必滅、たとえ王

15日	水	ひのと	九紫	小正月、小豆がゆ	廿二	友引	さだん	軫	母倉	6.50	16.50	21.52	14.10
16日	木	つちのえ うま	一白	やぶ入り、賽日、真宗本派親鸞聖人忌、 えんま詣り、三隣亡、不成就日	廿三	先負	とる	角	神よし	6.50	16.51	22.59	15.01
17日	金	つちのとり	二黒	○下弦二時五八分、防災とボランティアの日、 秋田太平山三吉神社梵天祭	廿四	佛滅	あやぶ	亢	大みやう	6.50	16.52	11.09	16.07
18日	土	かえ さる	三碧	土用一時二一分、初観音、庚申	廿五	大安	あやぶ	氏	大みやう	6.49	16.53	10.21	17.37
19日	日	かのと	四緑		廿六	先勝	おさん	心	めつもん	6.49	16.54	11.13	18.09
20日	月	みづのえいぬ	五黄	大寒二時五五分、二十日正月	廿七	友引	ひらく	尾	くま日	6.49	16.55	12.18	18.11
21日	火	みづのと	六白	初大師、八せん終り	廿八	先負	とづ	箕	よるづ	6.48	16.57	13.39	19.21
22日	水	きのえ	七赤	黙阿弥忌、甲子、天しや、一粒万倍日	廿九	佛滅	たつ	斗	十し	6.48	16.58	14.26	20.11
23日	木	きのと	八白		三十	大安	のぞく	牛	天おん	6.47	16.59	15.18	21.04
24日	金	ひのえ とら	九紫	初地蔵、東京東鴨とげぬき地蔵尊大祭、 不成就日	朔	先勝	みつ	女	万よし	6.47	17.00	16.15	22.32
25日	土	ひのと	一白	●朔六時四二分、日元日、鳥根出雲大社福神祭、 ●初天神、東京亀戸天神社替え、奈良法皇正月大 法然上人忌一粒万倍日、旧暦正月大	二	友引	たいら	虚	天おん	6.46	17.01	17.13	23.10
26日	日	つちのえ たつ	二黒	文化財防火デー、道元禪師誕生会、臘日、 天理教本部春季大祭	三	先負	さだん	危	母倉	6.46	17.03	18.12	23.45
27日	月	つちのとみ	三碧	国旗制定記念日、小田原道了尊大祭、 己巳、不成就日	四	佛滅	とる	室	母倉	6.45	17.07	19.10	24.30
28日	火	かえ うま	四緑	初不動、大つち、三隣亡	五	大安	あやぶ	壁	大みやう	6.45	17.08	20.06	25.15
29日	水	かのと	五黄		六	赤口	あやぶ	奎	神よし	6.44	17.09	21.02	26.02
30日	木	みづのえさる	六白		七	先勝	たいら	翼	大みやう	6.44	17.10	21.52	26.48
31日	金	みづのとり	七赤	旧七草、松山椿祭(2月2日迄)、 水沢黒石寺蘇民祭	八	佛滅	たつ	斗	十し	6.42	17.07	22.52	27.34

者といえどもこれを避ける  
る者はなく、そしてその命  
尽きるとき、季節を問うも  
のでないこと、季節を問う  
のである。従って葬儀その  
は、一月に大きな関係はな  
い、この月七日までのい  
わゆる「松の内」は仏式で  
は葬儀を差し控えるならわ  
しである。

【祭】暦とは切つても切れ  
ないのが祭祀、遠い祖先か  
ら伝わった「お祭り」の年  
中行事である。

年の初めの「元日」。一年  
間の出発点として、数々の  
風習が伝承されています。

初詣、年始回り、門松、鏡  
餅、若水、屠蘇、雑煮、お  
せち料理……等、地方によ  
り家庭により、多少の差異  
はあるが、ほとんどの人が  
この日を祝う。

三日までを「三が日」とい  
い、その間の二日は初荷、  
初夢、書初め、仕事始め…  
など縁起を祝う。

七日は「一七日正月」とい  
い、十五日は「小正月」と  
して、それぞれの習慣によ  
る祭事を行うが、七日の「七  
草がゆ」については、冬期  
のビタミン補給だとする合  
理的解釈もある。